

黒田淑子

（お茶の水女大）

目的 この研究は、親子関係を支える自主的な集団活動での「日常生活にひらかれた」心理劇の連続研究として行っているものである。今回は、人間関係構造の異なる心理劇の状況演出の特質を明らかにし、多様な心理劇を組み合わせることの意味について探究する。

方法 1988～1997年度の大乳幼児集団研、児童集団研における親グループの活動資料からAウォーミングアップの心理劇及びB問題・課題の心理劇を取り上げ、Aの典型的に異なる状況演出の特質を、Bの問題・課題の展開を促す連続的な状況演出の特質を探る。

結果および考察 人間関係構造を軸に、下記のような状況演出の可能性とその特質が明らかになった。Aウォーミングアップの心理劇：A1.物を媒介に、順次自己の日常生活体験・役割体験を語る（新年会他）〈特質〉個々の独自性の表出による外接的關係構造化 A2.個の役割行為を他のメンバーがなぞり、一緒に表演する（気分転換他）〈特質〉補助自我を媒介とする内接的關係構造化 A3.小グループでさまざまな役割を取り合い、新たな関係を創造する（家族の記念日他）〈特質〉異質な役割の分担・連担による接在的な關係構造化。B問題・課題の心理劇：B1.親子関係に関する日常生活場面の心理劇〈特質〉問題状況を含む重層的な關係構造化 B2.「間」の心理劇・活動（危機状況の表演；状況転換の可能性を探る集団討論；独白の心理劇他）〈特質〉内接的・接在的・外在的状況における問題への多角的なアプローチ B3.問題状況の転換変容の心理劇〈特質〉相互媒介的な人間關係構築の予測とその行演。このように、多様な心理劇を組み合わせるならば、個の成長、柔軟な人間關係の展開、親子をめぐる問題・課題の深まりをもたらすことができよう。